

豊岡偉人伝 12

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。
その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

鉾山王と呼ばれ、郷里の産業育成に尽力した実業家 中江種造

中江種造

(1846～1931)

京町出身 実業家

- 1846年 京町に生まれる
- 1858年 13歳 中江家の養子となる
- 1868年 22歳 砲術家の久世治作に出会い、化学を勧められる
フランス人コワニエに随行して生野鉾山に勤務する
- 1875年 29歳 古河市兵衛の顧問技師となる 翌年、足尾銅山の買収を勧め、自ら経営にあたる
- 1885年 39歳 古河家顧問を辞め、独立 銅山の経営に次々とあたる
- 1896年 50歳 製糸場拡産社(日高村)を買収
- 1897年 51歳 宝林銀行(豊岡町)の責任社員となる
- 1899年 53歳 妙楽寺に別荘の敷地を購入する
- 1898年 52歳 大川村(高知県)で造林事業を始める
- 1902年 56歳 育英基金「中江济学会」を創設する
- 1907年 61歳 中江煉瓦工場(豊岡町)を開設 1913年まで操業
- 1917年 71歳 中江産業合資会社を設立し、1919年まで代表役員となる
- 1921年 75歳 豊岡町上水道建設費全額の寄付を承諾 二見水源地鎮祭
- 1922年 76歳 豊岡町上水道竣工式
- 1925年 79歳 上水道建設に貢献したことを称え、寿公園に銅像が建てられる
- 1931年 85歳 大阪で永眠 豊岡町主催の慰霊祭が行われる



生い立ち

豊岡藩の武士の家に六男として生まれましたが、13歳の時に中江家の家名断絶をさけるために中江晨吉の養子になりました。

当時は、ペリーが浦賀に来航して但馬地方でも海岸防備が急務となり、また生野の変も起きて不安な世情でした。彼は、藩士として藩内の警備にあたり、藩の命令で火薬の取り扱いや砲術のほか、和算(数学)や測量術も習いました。鳥羽伏見の戦いの際には、京都で桂御所の警備にあたり、そこで、砲術家として名高い大垣藩士の久世治作と出会います。久世からは西洋の理化学の重要性を説かれ、専門的な化学の知識を身に付けていきました。同年、フランスの鉾山技師コワニエの助手として生野鉾山に勤務し、約2年半修行を積みました。鉾山王となるための第一歩を踏み出したのです。

鉾山王への道

東京に出た後、古河市兵衛(古河鉾業の創業者-現古河機械金属)の顧問技師となりました。そこで足尾銅山(栃木県)や草倉銅山(新潟県)の経営にあたり、古河鉾業を大きくしていきます。

約10年後、独立して岡山に移住し、国盛鉾山を手始めに東山鉾山(徳島県)、五木鉾山(熊本県)、飯盛鉾山(和歌山県)、千原鉾山(愛媛県)などを経営し、巨万の富を築き上げていきました。

郷里の産業育成へ

富を得た彼は、造林事業にも着手し、人材を育てるための「中江济学会」という育英基金を創設します。また、郷里で三つの大きな事業に出資し、自ら経営にあたりました。「拡産社」、「宝林銀行」、「中江煉瓦工場」です。これらは、全て経営の立て直しを要請されて引き受けたものでした。



▲妙楽寺の別荘(現豊岡カトリック教会)

当時、豊岡町では円山川改修や市街地区画整理、丹後鉄道の敷設などの「大豊岡構想」が推し進められていました。また、飲み水はそれまで不衛生だったため、上水道の敷設は緊要の課題でした。彼は工事費の全額を寄付し、その功績を称えて豊岡町が寿公園に銅像を建立。上水道竣工式の行われた5月11日には、毎年、「水道まつり」が行われます。



●発行／豊岡市
☎07961231111
FAX231124
●編集／政策調整部秘書広報課

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(支所)
・竹野 ☎52471111
・出石 ☎311111
・城崎 ☎5442321000
・日高 ☎110101
・但東 ☎5442321000